

令和 4 年度

施政方針

企画調整課
862・9937

はじめに

はいたい
ぐすーよー ちゅうがなびら。
平成 26 年 11 月から市政を預かり、7 年と 2 か月が経過しました。これまで「平和・こども・未来 あなたととも」の理念のもと、「なはで暮らし、働き、育てよう！笑顔広がる元気なまち N A H A」の実現に向け、誠心誠意努めてまいりました。

令和 4 年度は、私の 2 期目の総仕上げの年です。強い気持ちと勇氣、覚悟を持って、全力で市政運営に取り組む

所存であります。

本市は、輝かしい次の 100 年に向けて、力強く新たな一歩を踏み出しました。先達が 100 年にわたり築き、守ってきた那覇市の「風格」に、更に厚みと高みを加え、県都としての新たな礎を築いてまいります。市民の皆様並びに、本市議会の皆様におかれましては、より良い市政の実現に向け、格段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ゆたさるぐとう うにげーさびら。

1 新型コロナウィルス 対応



新型コロナが確認されてから 2 年が経ちました。今日に至るまで市民の皆様や事業者の皆様には、様々な負担やご苦労をおかけする中で、感染拡大防止にご協力いただき、心から感謝申し上げます。

また、市民の命を守るため、日夜最前線で医療や看護にあたられている医療従事者の皆様、エッセンシャルワーカーの皆様の尽力に敬意を表します。

私は、感染拡大防止に迅速かつ的確に対応するため、那覇市危機管理対策本部の先頭に立ち、「命を守る」「経済をつなぐ」「日常をつくる」という基本方針のもと、感染防止対策、積極的疫学調査、ワクチン接種、経済対策など、様々な施策を講じてまいりました。スピード感を持って進めてきたワクチン接種の効果もあり、市内の感染状況は、一時落ち着きを見せていたものの、昨年末から非常に感染力の強い新たな変異株への置き

換わりにより、想定を超えるスピードで感染が再拡大しております。医療体制や支援体制を維持するとともに、この第 6 波を食い止めるため、今月 5 日から始まりました一般向け 3 回目のワクチン接種や、3 月から予定しています 5 歳から 11 歳までのワクチン接種につきましても、県や関係機関としっかりと連携し、万全を期して取り組んでまいります。

2 公約の進捗

私が公約として掲げた「10 の約束」は、184 の施策のうち約 95%、174 の施策で着手又は達成となっております。

具体的には、子ども・子育て分野では、市長就任以来、待機児童問題を市政運営の 1 丁目 1 番地に位置付けて取り組んだ結果、平成 28 年度の 559 人をピークに確実に減少し、令和 3 年 4 月 1 日時点で 37 人と大幅に減少しております。

また、子育て世代の負担軽減を図るため、今年 4 月から通院に係ることも医療費助成の対象を、中学校卒業までに拡充し、窓口での支払いが要らない現物給付方式にて実施いたします。

経済・観光分野では、再整備中の第一牧志公設市場は、今年 12 月の完成を目指しております。併せて、商店街等が取り組むアーケード再整備事業等についても、継続して支援してまいります。



まちづくり分野では、協働によるまちづくりを推進するため、小学校区まちづくり協議会 13 校区に設置をしてまいりました。更に 2 校区の準備会も設置に向けて進め

ており、引き続き関係者と連携しながら全 36 校区の設置に向け、支援を継続してまいります。また、真和志地域の新たなコミュニティ拠点「(仮称)新真和志支所複合施設」の整備については、官民連携の手法による事業者の公募に着手いたします。

その他の分野につきましても、着々と施策を実施しており、引き続き、公約の達成に向けて全力で取り組んでまいります。

3 子どもの笑顔が輝くまちづくり

令和 3 年 4 月 1 日時点の保育所等の待機児童数は 37 人となり、「待機児童ゼロ」の実現がいよいよ見え始めてまいりました。待機児童ゼロの実現はゴールではなく、新たなスタートラインであると私は捉えております。

いつでも希望の園に入所できるなど、子育て世帯のニーズに細やかに対応できるよう、「待機児童ゼロのその先へ」取組を進めてまいります。また、ここ数年で顕在化してきたヤングケアラーの問題など、新たな課題にも真摯に向き合



政府は、令和 5 年度に子どもや家庭への支援を一元的に担う「子ども家庭庁」を創設するとしております。

私は、親の笑顔が子どもの笑顔をつくり、また、子どもが笑顔であれば、親も幸せになると信じております。これからの社会を創る子どもたちが輝き、生きる力を育み逞しく成長していけるよう、子ども子育て支援に全力を尽くしてまいります。

4 節目の年に平和を思う

沖縄は今年、多くの尊い命が失われた沖縄戦から 77 年を迎えます。戦争体験者が少なくなる中、戦禍の記憶を風化させてはなりません。

平和であるからこそ本市の発展があります。復帰 50 周年を迎えるにあたり、私はこの節目の年に平和で豊かな那覇の未来を願い続け

戦後、長い間、本土から切り離された米軍統治下時代を経て、幾多の困難を乗り越えて本土復帰を果たしました。1972 年 5 月 15 日、那覇市民会館で開かれた沖縄復帰記念式典において、復帰運動の先頭に立った屋良朝苗知事は「鉄石の厚い壁を乗り越え、けわし

い山をよじ登り、茨の障害をふみ分けて遂に」と悲願をかみしめ、世界の恒久平和を誓いました。



5 地域経済の回復を目指して

新型コロナにより落ち込んだ地域経済は、那覇とまーるクーポン事業や那覇買エール商品券事業など、本市や県、国の施策により、賑わいが戻りつつ回復の兆しを見せ始めていた矢先、またしてもコロナの打撃を受けています。

再び感染拡大の厳しい状況に置かれた、地域事業者の皆様の支援を継続し、押し寄せるコロナの波からしっかりと事業者を守る必要があると考えております。令和 3 年度に実施した市内中小企業経営

実態調査からニーズを的確に捉え、事業者がコロナ禍を乗り越えるための事業活動の継続や事業の回復、新たな事業の展開につなげられるよう、臨機応変に支援を図ってまいります。

アフターコロナを見据え、令和 3 年度に「コロナ期観光回復戦略」を策定いたしました。リーデ

令和 4 年度は、その一環として、本市の ICT 産業の振興の羅針盤となる方針等の策定に取り組んでまいります。

